

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                     |            |  |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 3370400610          |            |  |
| 法人名     | 株式会社 アール・ケア         |            |  |
| 事業所名    | グループホーム はるや (東ユニット) |            |  |
| 所在地     | 玉野市東高崎25-183        |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 10 月 9 日     | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370400610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370400610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社プランチピース      |  |  |
| 所在地   | 岡山市中区江並311-12    |  |  |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 10 月 26 日 |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の生活ペース、習慣、食事を楽しむこと、排泄の自立など利用者様本位で考え、できる限り希望に添えるよう、チーム一丸となって支援している。筋力維持を図るため、個々に合った午前・午後のTV体操、ステップ台運動、マッサージなどを行い、活気ある生活を支援している。看取りケア時は御本人、御家族の希望に添えるよう、主治医、看護師、スタッフが密な連携をとり、支援している。理念教育を徹底するために、毎月のミーティングで話し合いを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から程近く、周辺にはファミレスやコンビニ、スーパー、ドラッグストアなどがあり、飲食や買い物に大変便利である。また、地域貢献の一つとして、事業所に設置しているAEDが地域の人も使えるように協定を結んでいる。優れている点として挙げられるのは、次の4点である。まず、新入社員へのサポート体制が整っていること。具体的には、月一回の面談や新人社員の年齢に近い職員を指導係りとして配置していることがある。二つめに、多職種と連携して、質の高いケアを提供していること。三つめに、ケア記録アプリを使用して職員の業務負担の軽減を図るとともに、情報共有しやすい体制が出来ていること。四つめに、職員から出た意見や提案が積極的に運営に活かされていることがある。工夫点としては、各トイレに柵を設置し、排泄時の個々のプライバシーに配慮していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果(東ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
|                   |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 理念を職員一人ひとりが理解、把握してもらうよう、いつでも見える位置に理念を掲示している。又、毎月ミーティングを行い、理念に沿ったケアについて話し合い、考え方の統一を図っている。   | 事務所内に法人と事業所の理念を掲示し、周知すると共に、毎月行うミーティングの中で理念を一つずつ深掘しながら、共通認識として全職員に浸透させている。新入や中途社員に対しては、新人研修やオリエンテーションの中で詳しく説明している。  |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 新型コロナウイルスが流行する前までは、月1回の地域のサロン会や地域の祭り、保育園のイベントにも参加していた。また、月に1度認知症カフェを開催していたが、コロナウイルス流行後は、開催できていない。新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、夏のボランティアや専門学生による現場実習等は徐々に再開している。  | コロナ禍以前は、地域のサロン会や祭りに参加したり、事業所主催の認知症カフェに家族や近所の人が来たりして、地域と密に交流していた。コロナが5類になったことで、インターンシップや看護専門学生の現場実習の受け入れなど、少しずつ交流を始めている。先日も地域の祭りで神輿が駐車場まで来てくれた。今後、中学生の職場体験を受け入れる予定である。                                  |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 地域で開かれている認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加し、地域の方に理解を深めている。認知症予防事業として、玉野アクティブクラブを開催し、地域の方が認知症についての理解を深めることが出来るよう取り組んでいる。   | /  | /                 |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルスが5類に移行したので、今年の8月より参加型の運営推進会議を再開している。運営推進会議では、事業所内で行われている行事、連絡などを行い、その都度参加者の意見を聞き、質問に答えるようにしている。参加者は、5名～10名。又、行事や日常のケアについて写真を使い、ご家族にわかりやすいように説明している。外部評価の結果や身体拘束について、看取りケアの振り返りなども行っている。 | 感染予防のため7月までは書面会議とし、議事録を参加メンバーに送付していた。8月からは通常通り、民生委員や自治会長、元自治会長、地域包括、家族が参加して、定期的に開催している。直近の会議では、事業所の感染症対策や対応について報告したり、コロナ禍で使用していた防具等を実際に着用して意見をもらったりしている。自治会と契約を交わし、AEDが地域の人でも使えるようになったのは、運営推進会議が発端である。 |                   |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる            | 半年に1回、待機者数の連絡を行っている。新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、今秋より相談員の方が来居して下さる予定になっている。年に一度、三者懇談会(施設、相談員、長寿介護課)に参加し意見交換を行っていたが、感染予防のため、中止となっている。運営推進会議の議事録を市役所、地域包括支援センターに送付している。                                   | 管理者が窓口となり、待機者数や空き情報などを報告・連絡したり、評価結果や運営推進会議の議事録などを送付したりして、密に連携している。また、玉野市主催の講演会に参加したり、認知症サポーターとして市職員に向けて認知症講座を行ったりして、協力関係を築いている。11月には玉野市から相談員が来訪する予定である。  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体的拘束適正化検討委員会を設立し、指針を整備している。研修に参加した内容は、ミーティングで共有している。身体拘束にならないよう、3カ月に1回、委員会でミーティングを行い、全スタッフに情報を発信している。また、毎月、不適切なケアや利用者様の介助や対応に困っていることなどについてアンケートを行い、スタッフ全員で改善案を考え、取り組んでいる。新型コロナウイルス感染予防の為、ミーティングはリモートで行っている。                         | 3ヶ月に1回、身体的拘束適正化検討委員会を開催している。委員会メンバーは、各ユニットの管理者と担当職員(各1名)である。また、年2回、外部の研修に参加した職員が講師をしたり、外部講師を呼んだりして、研修を行っている。研修や委員会の内容は、ユニットミーティングやLINEで情報共有している。そして、ケアに対する悩み等が言える場として、毎月、匿名アンケートを取っており、全職員で把握・共有しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。 |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | 介助の方法、入居者の方への声掛けの仕方など、気になることがあれば職員間で話し合い、注意している。研修に参加し、内容などを職員間で話し合っている。また、ミーティングの際虐待事例などを通し、職員間での話し合いを行っている。本年度より、虐待防止委員会を設置し、指針の整備を行っている。半年に1回、委員会を開催し、虐待防止について話し合いを行っている。今後は研修も行う予定。  |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 研修に参加し、その中で学び、ミーティングなどで他の職員に説明をし、話し合う機会を作っている。   |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                       | 入居前に契約、重要事項説明を家族の方に時間を作って頂き、利用料金、初期加算、サービス提供体制強化加算(Ⅰ)、医療連携体制加算、処遇改善加算(Ⅰ)、介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)、ベースアップ加算、入退居の条件、看取り、口腔衛生管理体制加算、科学的介護推進体制加算、栄養管理体制加算、入退院支援の取組、身体拘束適正化、個人情報取扱いについても理解できる様に説明し、同意を得ている。長期入院時における自室のショートステイ利用についても説明し、同意を得ている。 |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                   | 外部評価機関のアンケート集計結果を元に、結果について職員間で話し合い、解決している。会社より御家族の方に、苦情・相談葉書を1枚お渡しし、意見があれば投函していただくようお願いしている。苦情・相談葉書が届けば、内容を本社より連絡があり、職員に伝え話し合い、解決している。御家族の方にも解決策を説明するようにしている。  | 家族面会時や家族に電話連絡した際、お互いに話しやすい関係作りを心がけており、日頃から案内するだけでなく、今の現状等を詳しく伝えるようにしている。また、年2~3回、請求書と一緒に苦情・相談葉書を送付し、本社で集約している。利用者の意見や要望は、日常会話から聞き取っている。出た意見等は、家族との外出・外食支援や居室内のテレビ設置などに反映している。   |                   |

| 自己                          | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                             |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11                          | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | ミーティング、申し送り、行事等、職員が自発的に考えた意見を前向きに取り入れ、運営している。職員の不満、要望などは管理者が会社に伝えて理解して頂ける様にしている。年に1回個人面談を行っている   | 日頃の会話や個別面談(年1回)の中で、意見等を聞き取っている。新人職員に対しては、毎月一回面接するなど、細かくフォローしている。出た意見等は、ケア記録アプリの導入や勤務形態、行事内容、手作り料理などに反映している。 |                   |
| 12                          |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年1回人事考課を用いて情意効果、職務要件などから等級を決めることにより意欲・質の向上に努めている。勤務が不規則な為、可能な限り希望日に休みが取れる様配慮している。働き方改革がスタートし、有給5日取得できる体制が整っている。資格取得の為、会社自体が勉強会、費用などをバックアップし、各自の向上に努めている。                               |   |                   |
| 13                          |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新型コロナウイルスの影響により、例年通り開催されていない場合もあるが、外部研修の情報を収集し、職員が参加出来る様に計画を立て、研修内容については研修報告書を提出、参加終了後に、グループLINEに研修内容を報告し、ユニットごとで研修発表を行っている。参考になったことについては、取り入れて行く様にしている。また、質の向上に向けキャリア形成訪問事業などを利用している。 |   |                   |
| 14                          |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルスが流行する前までは、他のグループホームが開催する運動会に参加させていただきなど交流を図っていた。研修などにも他のグループホームに参加させていただき、職員同士で意見交換など交流を図っていた。認知症キャラバンメイトとして研修に参加し、同業者と交流を図っている。  |   |                   |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                          |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前に、御本人、御家族に見学をして頂き、生活の様子、精神面での不安についての状況を把握している。入居後は、御本人が安心して生活出来る様に御本人の言葉、表情に耳を傾け、職員間で話し合っている。   |   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | 入居申し込み時、見学時などに現在の様子、入居希望理由などをお聞きすると共に契約時にも御家族の話を再度お聞きしている。   |  |                   |
| 17 |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に話しを伺い、介護保険施設の説明、他施設への申し込み、相談などを勧め、必要なサービスの提供をしている。場合によっては、ケアマネージャーや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。   |  |                   |
| 18 |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                 | 御本人が家族の方への思い、昔の生活の様子、今の不安などを話しやすいような環境や話題作りを行ったり、一緒にレクリエーションや家事的な事を行う中で馴染みの関係を作っている。   |  |                   |
| 19 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている  | 面会は、新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、マスク着用などの感染症対策を行いながら、お客様の居室にて15分間対面での面会を再開している。また手紙、写真などを御家族に送らせて頂き、生活の様子を伝えている。またZOOMやLINEを使用したWeb面会も可能であることを御家族にお伝えしている。新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、行事等の参加案内等も再開したいと考えている。 |  |                   |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている              | 新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、事前に予約をして頂き、県内外問わず、友人などが面会に来られた際、マスク着用などの感染症対策をしながら居室にてお話出来る環境作りを行っている。   | 家族と一緒に墓参りに行ったり、実家に戻ったりする利用者があり、個々の生活パターンを尊重している。また、日頃から丁寧な挨拶や声かけを心がけ、家族や親戚、知人・友人等が来訪しやすい雰囲気作りに努めている。継続支援の一つとして、携帯の補助や年賀状のサポートなども行っている。 |                   |
| 21 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている         | 個々の性格を理解し、関りが持てる様職員が間に入り、会話・レクリエーションなどを行っている。居間での席も、利用者同士の相性、折り合いを見ながら考えるようにしている。西ユニットへも自由に出入りでき、交流を図れるようにしている。  |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 新しい生活の場所への日常生活の様子、精神面、特に気をつけて欲しい事などの情報提供を行ったり、面接時に職員が情報提供している。退居後、ご家族様より生活や制度について相談があれば支援に努めている。   |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の会話の中から、御本人の暮らしの希望を尋ね把握に努めている。又意思表示が難しい方は、今までの好みや昔の事を御家族に尋ね、御本人の意向把握に努めている。  | チラシを見ながら会話したり、行きたい場所を話したりしながら、個々の暮らしの希望や意向を把握している。些細なことも見逃さないようにしている。意思表示が出来ない利用者に対しては、家族に生活歴などを聞いたり、利用者の表情や言動で把握している。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人、家族、ケアマネージャーの方から、以前の様子を探ったり、利用していたサービスの把握に努めている。本人の話の中で、職員が把握して出来ていない所があれば、家族に尋ね把握するように努めている。  |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 一人ひとりの生活のリズムを理解し、身体的変化などの観察、会話の中から精神的な面を把握し、生活の中で声を掛けながら、手伝いなどを通し有する力を引き出せる様に心がけ、記録にも残すようにしている。  |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活の中で、本人の思いや意見を把握し、家族の方にも意見などを尋ね、職員同士でモニタリングカンファレンスを行っている。必要に応じて医師やリハスタッフ、看護師の意見やアイデアを反映している。  | 家族から聞き取ったアセスメントを基に、担当職員がプランを作成している。半年に1回モニタリングを行い、状態が変わればその都度、見直ししている。家族の希望や要望の他、専門職からのアドバイスや提案もプランに反映している。            |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 令和3年3月より、電子記録を導入。記録アプリに食事摂取量・健康状態の変化・排泄・日常の様子・精神面・訪問診療などを分類し記載している。皮膚疾患や傷などのお客様の身体の異変については、出勤者2人以上で確認し、写真を撮り、記録に残している。職員間の申し送りでは特に大きな変わりなどを伝える様にしている。お客様のことで気になることがあれば、当日の出勤者で話し合い、情報共有している。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 緊急を要する場合や、本人や家族の状況に応じて、通院など必要なサービスを行っている。   |  |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、獅子舞ボランティアに来ていただいた。感染状況を鑑みながら、徐々に再開していく予定。   |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。急に体調不良になられた時、家族の方に状況を伝え、可能であれば受診に同行していただいている。緊急時や夜間帯も指示がもらえるようかかりつけ医と連携を図っている。                     | 数人以外はかかりつけ医を継続しており、職員が受診対応している。受診同行に関しては、事前連絡した時に確認している。また、2週間に一回、協力医が訪問しており、事業所内の看護師と連携しながら、適切な医療を提供している。訪問歯科による口腔ケアなど、利用者・家族の要望に応じて対応している。                       |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 兼務看護師採用に日常的な体調の変化があれば相談、連絡をしている。また、場合によっては看護師から家族、医師に連絡を取り、的確な対応が出来るようにしている。  |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、本人の食事・排泄・ADLの状況・精神面での様子・処方薬・特に気をつけていただきたい事などを情報提供している。病状にもよるが、面会に行き担当医師、看護師の方より情報をいただき早期の退院をアプローチしている。              |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 本人や家族の希望を聞き、その時にどのように対応していくかを話し合うように契約の時に説明をしている。兼務看護師と連携し、重度化や終末期における対応が可能となっている。看取りケア後はミーティングで振り返りを行い、両ユニット共に情報を共有している。 | 入所時、重度化及び看取りの指針を説明し、同意書にサインを貰っている。重度化した場合は、主治医が家族に説明し、再度、同意書を交わしている。職員に対しては、ミーティングを通じて方針や情報等を共有し、看取り後はユニットミーティングで振り返っている。また、年1回、キャリア形成の一環として外部講師を呼び、看取りの勉強会を開いている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変時、事故発生時に対応出来る様に、マニュアルを作り勉強を行っている。また、救命救急やAEDの使用法の講習に参加している。   |  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                                       |
|----------------------------------|------|---|--|--|---------------------------------------|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                     |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている            | <p>昨年の12月は他事業所への避難訓練、今年の6月には玄関先までの避難訓練と津波を想定した2階への垂直避難練習を実施。備蓄については、お客様・職員分の3日分の食材・飲料水・生活用水を確保している。防災マニュアルを作成し、食糧等の備蓄品や災害時の避難場所、各職員の役割等を明記している。また、職員全員が災害用伝言ダイヤルと円滑に使用出来るよう、月に2回、録音練習を行い、管理者が確認をしている。またお客様1人1人の防災カードを作成し、どういった介助が必要か等を明記し、ボランティアの方々にスムーズにケアにあたって頂けるよう準備している。</p> | <p>年2回、昼間を想定した避難訓練を実施しており、利用者は全員参加している。また、年2回、津波を想定した災害訓練を実施しており、他事業所または2階へ避難する計画となっている。そして、災害発生時に活用できる様、月2回、実際に災害用伝言ダイヤルに電話をかけて録音練習している。災害用伝言ダイヤルに関しては、運営推進会議の中で家族にも説明している。非常災害時マニュアルを整備し、2階の備蓄室には、3日分のカップ麺や缶詰、米、パット類、衛生品などを保管している。</p> | <p>夜間を想定した訓練の実施並びに、地域の人の参加に期待します。</p> |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |  |                                       |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | <p>利用者一人ひとりの思いや性格をきちんと把握しミーティングでも話し合いを行い、自己決定しやすい様その方に応じた声掛けの仕方、声の大きさ等に配慮しながら対応をしている。</p>  | <p>トイレ誘導時の小さな声かけ、入室時のノック、さん付け呼称など、利用者を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけ及び対応に取り組んでいる。また、入社当日にマナー研修を行っている。</p>  |                                       |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | <p>御本人の思いに添える様、写真や物を見ていただくなどその人に合った選択しやすい方法で提案して自己決定出来るようにしている。</p>  |  |                                       |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <p>一日の流れの中で希望があれば優先的に行っており、食べたい物があればメニューを変更したりし希望に沿えるようにしている。入眠・起床時間などもその方の意思を尊重し皆と同じではない。</p>   |  |                                       |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | <p>更衣は本人の意志で決めていただき、職員が見守り、支援が必要な方については手伝う様になっている。自分で選ぶことが出来ない方については、選択肢を用意し、自分で選んでもらう様に心がけている。カラー、パーマ、カットを希望される方には出張福祉美容室が利用出来る事を伝えている。行事や外出時には女性のお客様がお化粧ができるよう、化粧品を揃えている。</p>  |  |                                       |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | <p>一人ひとりの好みを聞いたり、料理の本と一緒に見てメニューを考えたりしている。一緒に食事をしたり、食事作りや、洗物、食器拭きなども利用者の方が積極的に行って下さっている。誕生日には、御本人が好きなメニューやおやつを用意している。</p>   | <p>朝・夕は職員が手作りし、昼は給食業者を利用している。朝・夕のメニューは、料理本を見たり、利用者の意見や要望を取り入れながら職員が作成し、栗ご飯やいなり寿司、柏餅など、行事食や季節に合わせた食事を提供することで、食事が楽しみの一つとなっている。また、野菜を切ったり、へたを取ったりするなど、出来る人には手伝ってもらっている。</p>   |                                       |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている              | 利用者の方の好み、食事量・水分量・栄養面を職員が把握している。1日の水分摂取量を計算し記録に残している。好みの物を勧めたり、毎食後にゼリーなどを勧めて、少しでも水分が摂れる様にしている。また、食事低下の方に対しては御家族、主治医と相談し御本人が好まれる物や高カロリー飲料などを提供している。空腹を訴える方には、個人購入のお菓子などを食べて頂いている。管理栄養士に月に1回、栄養についてなど相談し、実践している。 |   |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 毎食後、歯磨き・うがいをして頂く様に声掛け、介助し口腔ケアを行っている。希望により、訪問歯科の口腔ケアを受けておられる方もいらっしゃる。月に1回、訪問歯科から技術的助言、指導を受けている。  |   |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 排泄記録を記録アプリに入力して管理している。利用者の排泄パターンを把握し、排泄間隔が空いていればさりげなく声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。その方に合わせたパット、紙パンツを使用し、失禁が多くなればパットの見直し、トイレ誘導の間隔の見直しを行っている。   | 自立支援の視点から、トイレでの排泄が大変重要だと考えている。布パンツで過ごすことを目標に掲げ、ケア記録アプリで排泄状況を確認しながら、その人にあった排泄介助を行うと共に、パットの大きさやオシメの種類なども一人ひとりに合わせて見直ししている。      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 排泄記録を記録アプリに入力して管理している。排便の確認、便秘の方にはスポーツドリンク、寒天、大麦若葉などで水分補給を行っている。献立にも、野菜を多く取り入れるように工夫している。   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一般浴と機械浴があり、その人それぞれに沿った負担の少ない入浴方法を行うようにしている。入浴時間はだいたい決まっているが、希望があれば入浴時間に限りなく行っている。また、異性介助に抵抗がある方には同性職員が対応するようにしている。希望される方には、化粧水や乳液等による入浴後のケアも行っている。  | 週2～3回の入浴を基本とし、毎日入浴したいという要望があれば対応している。入浴を拒否されても無理強いすることなく、その人のペースに合わせた入浴ができるように支援している。一般浴には入浴剤や季節湯を、機械浴には季節湯を提供しながら、入浴を楽しんでいる。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 日中、本人の意志に添った活動(体操・ぬり絵・パズル・風船パレー・家事的手伝い)をして頂き、生活のリズムを整える様努めている。夕方からは、出来るだけ穏やかに過ぎていただき、入眠しやすい環境作りをしている。   |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 一人ひとりの薬の処方箋をファイルし、電子記録にも写真で保存し、職員が内容を把握出来る様にしている。薬のセットは、一週間分ビルケースにセットし、間違いのないようにしている。服用時には、職員が声を掛けながら本人に手渡し、服用確認をしている。薬の変更などがあれば、状態を記録し、体調に変化があれば主治医に相談している。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている  | 一人ひとり得意なこと、興味を持たれていることを探し参加して頂き、力が発揮出来る場面作りをしている。仕事に参加していただいた時には、感謝の言葉を伝えている。  |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 日常的には、玄関先やウッドデッキの花や裏庭を見に行ったりしている。又、花見や紅葉の時期には、馴染みの場所へドライブに行っている。一人ひとりの状態に合わせ、御家族に協力して頂き、希望する場所に出かけていただく等している。  | 家族と一緒に食事や墓参りに行ったり、家に戻ったり、服を見に出かけたりしている。また、気候が良い日には、職員と一緒にドライブで近くの公園に行ったり、花見を見に行ったりしている。新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、今後もっと職員との外出機会を増やしていきたいと考えている。                                 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 金銭の所持については、御家族の方と相談しながら行っており、御本人が希望されれば小額を保持していただいている。   |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 御本人の希望があれば、御家族の方と相談しながら、電話や手紙のやりとりをしている。個人携帯を持たれており、操作の援助を行い、御家族とのやりとりを支援している。   |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の方と一緒に季節ごとの壁画を作り季節感を出すようにしている。居間には季節を感じられる飾りや花などを飾ったり、観葉植物を置いて温かみのある空間にしている。ウッドデッキには花を植えている。書道の展示や外出先での思い出の写真も飾っている。                                      | 広いフロアには利用者が作成した季節の掲示物や観葉植物が飾られ、車椅子の人もゆとりをもって使用できるトイレには収納棚があり、紙パンツ等が見えないようプライバシーに配慮している。また、浴室には個々のバッドや薬などを収める棚があり、すぐに取り出せるよう綺麗に整理されている。感染対策としてトイレやフロアなどの各空間にはオゾン発生器が設置されている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                 | 椅子・ベンチ・ソファなどを色々な場所に置くことにより、利用者様が思い思いに過せる様に工夫している。   |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には以前から使っていた馴染みのある物を持って来ていただける様にしている。家具・ベッドの配置も、御本人が使い易く落ち着ける様に部屋作りをして頂いている。御家族との写真なども飾っている。 | 馴染みの布団や仏壇、家族写真、使い慣れた家具や化粧品などが持ち込まれており、個々に家にいるような雰囲気を醸している。また、壁面には利用者が作成した趣味の刺子やカレンダー等が貼られており、個々に居心地良い空間となっている。 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している        | 一人ひとりの状態の変化を把握して、変化に合わせた環境整備を行う様、職員同士話し合い、本人の不安を取り除き、安心して生活して頂ける様に工夫している。                     |  |                   |

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                     |            |  |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 3370400610          |            |  |
| 法人名     | 株式会社 アール・ケア         |            |  |
| 事業所名    | グループホーム はるや (西ユニット) |            |  |
| 所在地     | 玉野市東高崎25-183        |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 10月 2日        | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoId=3370400610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoId=3370400610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ブランチピース      |  |  |
| 所在地   | 岡山市中区江並311-12    |  |  |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 10 月 26 日 |  |  |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりの生活リズム・ペースに合わせ寄り添ったケアを心がけている。残存機能を生かせるようその方に合わせた家事的なお手伝いや生活リハビリ、午前午後にはTV体操・足の体操を行っている。御家族の希望に添えるよう、主治医、看護師、スタッフが密な連携をとり、支援している。理念教育を徹底するために、ミーティング時に理念やクレドに沿ったケアについて話し合い、意識統一を図っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から程近く、周辺にはファミレスやコンビニ、スーパー、ドラッグストアなどがあり、飲食や買い物に大変便利である。また、地域貢献の一つとして、事業所に設置しているAEDが地域の人も使えるように協定を結んでいる。優れている点として挙げられるのは、次の4点である。まず、新入社員へのサポート体制が整っていること。具体的には、月一回の面談や新人社員の年齢に近い職員を指導係りとして配置していることがある。二つめに、多職種と連携して、質の高いケアを提供していること。三つめに、ケア記録アプリを使用して職員の業務負担の軽減を図るとともに、情報共有しやすい体制が出来ていること。四つめに、職員から出た意見や提案が積極的に運営に活かされていることがある。工夫点としては、各トイレに棚を設置し、排泄時の個々のプライバシーに配慮していることがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|--|--|---|--|
| 56<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59<br>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66<br>職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62<br>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |   |  |

自己評価および外部評価結果(西ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 理念、クレドを職員一人ひとりが理解、把握出来るように、ユニットに掲示している。ミーティング時に理念やクレドに沿ったケアが出来ているかを話し合い、具体的な取り組みを決め、実施している。また不適切ケアへの取り組みとして、月に1回職員にアンケートを行い、理念に基づいたケアを考え、職員全員で取り組んでいる。  | 事務所内に法人と事業所の理念を掲示し、周知すると共に、毎月行うミーティングの中で理念を一つずつ深堀しながら、共通認識として全職員に浸透させている。新入や中途社員に対しては、新人研修やオリエンテーションの中で詳しく説明している。   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                      | 月1回の地域のサロン会や地域の祭り、保育園のイベントにも参加していた。また、月に1度認知症カフェを開催していたが、新型コロナウイルス流行後は、参加・開催できていない。新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、夏のボランティアや専門学生による現場実習等は徐々に再開している。   | コロナ禍以前は、地域のサロン会や祭りに参加したり、事業所主催の認知症カフェに家族や近所の人が来たりして、地域と密に交流していた。コロナが5類になったことで、インターンシップや看護専門学生の現場実習の受け入れなど、少しずつ交流を始めている。先日地域で神輿が駐車場まで来てくれた。今後、中学生の職場体験を受け入れる予定である。                                     |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 地域で開かれている認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加し、地域の方に理解を深めている。認知症予防事業として、玉野アクティブクラブを開催し、地域の方が認知症についての理解を深めることが出来るよう取り組んでいる。  |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルスが5類に移行したので、今年の8月より参集型の運営推進会議を再開している。運営推進会議では、事業所内で行われている行事、連絡などを行い、その都度参加者の意見を聞き、質問に答えるようにしている。参加者は、5名～10名。又、行事や日常のケアについて写真を使い、ご家族にわかりやすいように説明している。外部評価の結果や身体拘束について、看取りケアの振り返りなども行っている | 感染予防のため7月までは書面会議とし、議事録を参加メンバーに送付していた。8月からは通常通り、民生委員や自治会長、元自治会長、地域包括、家族が参加して、定期的に開催している。直近の会議では、事業所の感染症対策や対応について報告したり、コロナ禍で使用していた防具等を実際に着用して意見をもらったりしている。自治会と契約を交わし、AEDが地域の人も使えるようになったのは、運営推進会議が発端である。 |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる            | 半年に1回、待機者数の連絡を行っている。新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、今秋より相談員の方が来居して下さる予定になっている。年に一度、三者懇談会(施設、相談員、長寿介護課)に参加し意見交換を行っていたが、感染予防のため、中止となっている。運営推進会議の議事録を市役所、地域包括支援センターに送付している。                                  | 管理者が窓口となり、待機者数や空き情報などを報告・連絡したり、評価結果や運営推進会議の議事録などを送付したりして、密に連携している。また、玉野市主催の講演会に参加したり、認知症サポーターとして市職員に向けて認知症講座を行ったりして、協力関係を築いている。11月には玉野市から相談員が来訪する予定である。   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体的拘束適正化検討委員会を設立し、指針を整備している。研修に参加した内容は、ミーティングで共有している。身体拘束にならないよう、3カ月に1回、委員会でミーティングを行い、全スタッフに情報を発信している。また、毎月、不適切なケアや利用者様の介助や対応に困っていることなどについてアンケートを行い、スタッフ全員で改善案を考え、取り組んでいる。新型コロナウイルス感染予防の為、ミーティングはリモートで行っている。                            | 3ヶ月に1回、身体的拘束適正化検討委員会を開催している。委員会メンバーは、各ユニットの管理者と担当職員(各1名)である。また、年2回、外部の研修に参加した職員が講師をしたり、外部講師を呼んだりして、研修を行っている。研修や委員会の内容は、ユニットミーティングやLINEで情報共有している。そして、ケアに対する悩み等が言える場として、毎月、匿名アンケートを取っており、全職員で把握・共有しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。 |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 介助の方法、入居者の方への声掛けの仕方など、気になることがあれば職員間で話し合い、注意している。研修に参加し、内容などを職員間で話し合っている。また、ミーティングの際虐待事例などを通し、職員間での話し合いを行っている。本年度より、虐待防止委員会を設置し、指針の整備を行っている。半年に1回、委員会を開催し、虐待防止について話し合いを行っている。今後は研修も行う予定。   |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している   | 研修に参加し、その中で学び、ミーティングなどで他の職員に説明をし、話し合う機会を作っている。  |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                       | 入居前に契約、重要事項説明を家族の方に時間を作って頂き、利用料金、初期加算、サービス提供体制強化加算(Ⅰ)、医療連携体制加算、週改善加算(Ⅰ)、介護職員等特定処遇改善加算、ペースアップ加算、入退居の条件、看取り、口腔衛生管理体制加算、科学的介護推進体制加算、栄養管理体制加算などの加算についてや入退院支援の取組、身体拘束適正化、個人情報取扱いについても理解できる様に説明し同意を得ている。長期入院時における自室のショートステイ利用についても説明し同意を得ている。 |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                    | 外部評価機関のアンケート集計結果を元に、結果について職員、運営推進会議で話し合い、解決している。会社より御家族の方に、苦情・相談葉書を1枚お渡しし、意見があれば投函していたくようをお願いしている。苦情・相談葉書が届けば、内容を本社より連絡があり、職員に伝え話し合い、解決している。御家族の方にも解決策を説明するようにしている。   | 家族面会時や家族に電話連絡した際、お互いに話しやすい関係作りを心がけており、日頃から案内するだけでなく、今の現状等を詳しく伝えるようにしている。また、年2～3回、請求書と一緒に苦情・相談葉書を送付し、本社で集約している。利用者の意見や要望は、日常会話から聞き取っている。出た意見等は、家族との外出・外食支援や居室内のテレビ設置などに反映している。   |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11                         | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | ミーティング、申し送り行事等、職員が自発的に考えた意見を前向きに取り入れて運営している。不満、要望などは、管理者が会社に伝え理解を求めている。   | 日頃の会話や個別面談(年1回)の中で、意見等を聞き取っている。新人職員に対しては、毎月一回面接するなど、細かくフォローしている。出た意見等は、ケア記録アプリの導入や勤務形態、行事内容、手作り料理などに反映している。 |                   |
| 12                         |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年1回人事考課を用いて情意効果、職務要件などから等級を決めることにより意欲・質の向上に努めている。勤務が不規則な為、可能な限り希望日に休みが取れる様配慮している。働き方改革による業務改善後、有給5日取得できる体制が整っている。資格取得の為、会社自体が勉強会や費用などをバックアップし各自の向上に努めている。   |   |                   |
| 13                         |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新型コロナウイルスの影響により、例年通り開催されていない場合もあるが、リモート研修を主とした外部研修の情報を収集し、職員が参加出来る様に計画を立て、研修内容については研修報告書を提出、参加終了後に、グループLINEに研修内容を報告し、ユニットごとで研修発表を行っている。参考になったことについては、取り入れて行く様にしている。また、質の向上に向けキャリア形成訪問事業などを利用している。 |   |                   |
| 14                         |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルスが流行する前までは、他のグループホームが開催する運動会に参加させていただくなど交流を図っていた。研修などにも他のグループホームに参加させていただき、職員同士で意見交換など交流を図っていた。新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、認知症キャラバンメイトとして研修に参加し、同業者と交流を図っている。                                    |   |                   |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前に、御本人、御家族に見学をして頂き、生活の様子、精神面で不安についての状況を把握している。入居後は、御本人が安心して生活出来る様に御本人の言葉、表情に耳を傾け、職員間で話し合っている。   |   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | 入居申し込み時、見学時などに現在の様子、入居希望理由などをお聞きすると共に契約時にも御家族の話を再度お聞きしている。   |  |                   |
| 17 |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に話しを伺い、介護保険施設の説明、他施設への申し込み、相談などを勧め、必要なサービスの提供をしている。場合によっては、ケアマネージャーや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。   |  |                   |
| 18 |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                 | 御本人が家族の方への思い、昔の生活の様子、今の不安などを話しやすいように話題作りを行ったり、一緒にレクリエーションや家事的な事を行う中で馴染みの関係を作っている。  |  |                   |
| 19 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている  | 面会は、新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、マスク着用などの感染症対策を行いながら、お客様の居室にて15分間対面での面会を再開している。また手紙、写真などを御家族に送らせて頂き、生活の様子を伝えている。またZOOMやLINEを使用したWeb面会も可能であることを御家族にお伝えしている。新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、行事等の参加案内等も再開したいと考えている。 |  |                   |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている              | 新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、事前に予約をして頂き、県内外問わず、友人などが面会に来られた際、マスク着用などの感染症対策をしながら居室にてお話が出来る環境作りを行っている。  | 家族と一緒に墓参りに行ったり、実家に戻ったりする利用者がおり、個々の生活パターンを尊重している。また、日頃から丁寧な挨拶や声かけを心がけ、家族や親戚、知人・友人等が来訪しやすい雰囲気作りに努めている。継続支援の一つとして、携帯の補助や年賀状のサポートなども行っている。 |                   |
| 21 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている           | 個々の性格を理解し、関わりが持てるよう、職員が間に入り、会話・レクリエーションなどを行っている。居間での席も、利用者同士の相性、折り合いを見ながら考えるようにしている。東ユニットへも自由に出入りでき交流を図れるようにしている。  |  |                   |



| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 新しい生活の場所への日常生活の様子、精神面、特に気をつけて欲しい事などの情報提供を行ったり、面接時に職員が情報提供している。退居後、ご家族様より生活や制度について相談があれば支援に努めている。  |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の会話の中から、御本人の暮らしの希望を尋ね把握に努めている。面会時、家族の方とも話をし、少しの間でも御本人の希望の場所へ行ける様に検討、お願いをしている。   | チラシを見ながら会話したり、行きたい場所を話したりしながら、個々の暮らしの希望や意向を把握している。些細なことも見逃さないようにしている。意思表示が出来ない利用者に対しては、家族に生活歴などを聞いたり、利用者の表情や言動で把握している。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人、家族、ケアマネージャーの方から、以前の様子を探ったり、利用していたサービスの把握に努めている。本人の話の中で、職員が把握して出来ない所があれば、家族に尋ね把握するように努めている。   |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 一人ひとりの生活のリズムを理解し、身体的変化などの観察、会話の中から精神的な面を把握し、生活の中で声を掛けながら、手伝いなどを通し有する力を引き出せる様に心がけ、記録にも残すようにしている。   |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活の中で、本人の思いや意見を把握し、家族の方へも意見などを尋ね、職員同士でモニタリング・カンファレンスを行っている。   | 家族から聞き取ったアセスメントを基に、担当職員がプランを作成している。半年に1回モニタリングを行い、状態が変わればその都度、見直ししている。家族の希望や要望の他、専門職からのアドバイスや提案もプランに反映している。            |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 令和3年3月より、電子記録を導入。記録アプリに食事摂取量・健康状態の変化・排泄・日常の様子・精神面・訪問診療などを分類し記載している。皮膚疾患や傷などのお客様の身体の異変については、出勤者2人以上で確認し、写真を撮り、記録に残している。特に重要な事項に関しては、「申し送り機能」を使用し、分かりやすく、確認しやすいようにしている。職員間の申し送りでは特に大きな変わりなどを伝える様にしている。お客様のことで気になることがあれば、当日の出勤者で話し合い、情報共有している。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 緊急を要する場合や、本人や家族の状況に応じて、通院など必要なサービスを行っている。  |  |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、獅子舞ボランティアに来ていただいた。感染状況を鑑みながら、徐々に再開していく予定。  |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。急に体調不良になられた時、家族の方に状況を伝え、可能であれば受診に同行していただいている。緊急時や夜間帯も指示がもらえるようかかりつけ医と連携を図っている。  | 数人以外はかかりつけ医を継続しており、職員が受診対応している。受診同行に関しては、事前連絡した時に確認している。また、2週間に一回、協力医が訪問しており、事業所内の看護師と連携しながら、適切な医療を提供している。訪問歯科による口腔ケアなど、利用者・家族の要望に応じて対応している。                       |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 兼務看護師に日常的な体調の変化があれば相談、連絡をしている。また、場合によっては看護師から家族、医師に連絡を取り的確な対応が出来るようにしている。  |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、本人の食事・排泄・ADLの状況・精神面での様子・特に気をつけていただきたい事などを情報提供している。病状にもよるが、面会に行き担当医師、看護師の方より情報をいただき早期の退院をアプローチをしている。  |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 本人や家族の希望を聞き、その時にどのように対応していくかを話し合うように契約の時に説明をしている。兼務看護師との連携により、重度化や終末期における対応が可能となっている。重度化に伴う状態の変化は、その都度、御家族に連絡をしている。看取りケア後はミーティングで振り返りを行い、両ユニット共に情報を共有している。また運営推進会議でも取り上げ、御家族にも看取りについての報告を行っている。年に1回、看取りに関する研修に参加し、ミーティング時に情報を共有している。 | 入所時、重度化及び看取りの指針を説明し、同意書にサインを貰っている。重度化した場合は、主治医が家族に説明し、再度、同意書を交わしている。職員に対しては、ミーティングを通じて方針や情報等を共有し、看取り後はユニットミーティングで振り返っている。また、年1回、キャリア形成の一環として外部講師を呼び、看取りの勉強会を開いている。 |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                                |
|----------------------------------|------|---|---|---|--------------------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容              |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている            | 急変時、事故発生時に対応出来る様に、マニュアルを作り勉強を行っている。また、救命救急やAEDの使用法の講習に参加している。   |   |                                |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている            | 昨年の12月は他事業所への避難訓練、今年の6月には玄関先までの避難訓練と津波を想定した2階への垂直避難練習を実施。備蓄については、お客様・職員分の3日分の食材・飲料水・生活用水を確保している。防災マニュアルを作成し、食糧等の備蓄品や災害時の避難場所、各職員の役割等を明記している。また、職員全員が災害用伝言ダイヤルと円滑に使用出来るよう、月に2回、録音練習を行い、管理者が確認をしている。またお客様1人1人の防災カードを作成し、こういった介助が必要か等を明記し、ボランティアの方々にスムーズにケアにあたって頂けるよう準備している。 | 年2回、昼間を想定した避難訓練を実施しており、利用者は全員参加している。また、年2回、津波を想定した災害訓練を実施しており、他事業所または2階へ避難する計画となっている。そして、災害発生時に活用できる様、月2回、実際に災害用伝言ダイヤルに電話をかけて録音練習している。災害用伝言ダイヤルに関しては、運営推進会議の中で家族にも説明している。非常災害時マニュアルを整備し、2階の備蓄室には、3日分のカップ麺や缶詰、米、パット類、衛生品などを保管している。 | 夜間を想定した訓練の実施並びに、地域の人の参加に期待します。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |   |                                |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 利用者一人ひとりの思いや性格をきちんと把握し、ミーティングでも話し合いを行い、自己決定しやすい様その方に応じた声掛けの仕方、声の大きさ等に配慮しながら対応をしている。   | トイレ誘導時の小さな声かけ、入室時のノック、さん付呼称など、利用者を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけ及び対応に取り組んでいる。また、入社当日にマナー研修を行っている。   |                                |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 御本人の思いに添える様、ホワイトボードに文字で表したり、写真や物を見ていただくなどその人に合った選択しやすい方法で提案して自己決定出来るようにしている。  |   |                                |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れの中で希望があれば優先的に行っており、食べたい物があればメニューを変更するなど希望に沿えるようにしている。入眠・起床時間などもその方の意思を尊重し皆と同じではない。   |   |                                |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 更衣は本人の意志で決めていただき、職員が見守り、支援が必要な方については手伝う様になっている。自分で選ぶことが出来ない方については、選択肢を用意し、自分で選んでもらう様に心がけている。洗顔後、御本人、家族の希望により化粧水、乳液などを使用している。外出時には女性のお客様がお化粧ができるよう、化粧品を揃えている。2カ月に1回出張福祉理美容室を利用出来る事を伝えている。  |   |                                |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている   | 一人ひとりの好みを聞いたり、料理の本と一緒に見てメニューを考えたりしている。いりこの腹わた取りやお茶葉つめ、など手伝って頂いている。お誕生日には、御本人の好きなメニューやおやつを提供している。   | 朝・夕は職員が手作りし、昼は給食業者を利用している。朝・夕のメニューは、料理本を見たり、利用者の意見や要望を取り入れながら職員が作成し、栗ご飯やいなり寿司、柏餅など、行事食や季節に合わせた食事を提供することで、食事が楽しみの一つとなっている。また、野菜を切ったり、へたを取ったりするなど、出来る人には手伝ってもらっている。 |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 利用者の方の好み、食事量・水分量・栄養面を職員が把握している。また食事・水分摂取量は記録アプリに記載することで、摂取量の変化をグラフ等で把握することが出来ている。体調の変化、水分量が少ない方に関しては、1日の水分摂取量を計算し、好みの物を勧めて、少しでも水分が摂れる様にしている。水分摂取が苦手な方には、寒天ゼリーを提供し、食べて頂いている。その人に合った食事形態を把握し、食べやすい状態で提供している。また、タンパク質維持の為、白米に粉豆腐を混ぜて炊き、提供している。食欲低下の方に対しては、御家族・主治医に相談し、御本人が好まれる高カロリー飲料などを提供している。 |   |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 歯磨き・うがいをして頂く様に声掛け、介助し口腔ケアを行っている。口腔ケアが難しい方は、口腔ケア用スポンジ、口腔ケア用ウェットティッシュやマウスウォッシュを使用するなど、その人に合った口腔ケアを実施している。希望により、訪問歯科による口腔ケアを受けておられる方もいらっしゃる。月に1回、訪問歯科から技術的アドバイスや指導を受け、取り入れている。  |   |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録を記録アプリに入力することで、利用者の排泄パターンを把握し、排泄間隔が空いていればさりげなく声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。その方に合わせたパットを使用し、失禁が多くなればパットの見直し、トイレ誘導の間隔の見直しを行っている。  | 自立支援の視点から、トイレでの排泄が大変重要だと考えている。布パンツで過ごすことを目標に掲げ、ケア記録アプリで排泄状況を確認しながら、その人にあった排泄介助を行うと共に、パットの大きさやオシメの種類なども一人ひとりに合わせて見直ししている。  |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                 | 排泄記録を記録アプリに入力することで、排便の確認、便秘の方には牛乳、乳酸菌飲料などで水分補給を行っている。また、飲み物をあまり飲まれない方に対してゼリー状で提供したり、一人ひとり摂取しやすい形状での提供に努めている。献立にも、野菜を多く取り入れるようにし、便秘予防に努めている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 一般浴と機械浴があり、その人それぞれに沿った負担の少ない入浴方法を行うようにしている。入浴時間はだいたい決まっているが、希望があれば入浴時間に限らず行っている。また、異性介助に抵抗がある方には同性職員が対応するようにしている。希望される方には、化粧水や乳液などの入浴後のケアも行っている。必要に応じて足浴も実施している。         | 週2～3回の入浴を基本とし、毎日入浴したいという要望があれば対応している。入浴を拒否されても無理強いすることなく、その人のペースに合わせた入浴ができるように支援している。一般浴には入浴剤や季節湯を、機械浴には季節湯を提供しながら、入浴を楽しんでいる。               |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中、本人の意志に添った活動(ぬり絵・裁縫・体操・家事の手伝い)をして頂き、生活のリズムを整える様努めている。夕方からは、出来るだけ穏やかに過ごしていただき、入眠しやすい環境作りをしている。眠れない場合は、ホットミルクの提供など、お客様に応じた対応をしている。                                       |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の変更があれば申し送りなどで職員に伝え把握している。処方箋をファイルしすぐに確認出来るようにしている。1日の薬のセットを早出の勤務者が確認をして間違いのないようにし、薬は職員間で声掛けを行い、手渡しで服用、見守りを行っている。また、錠剤が一包化されていない場合や薬の種類が多い場合は、小さな袋に入れ、飲み忘れやセットミスを防いでいる。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人ひとり得意なこと、興味を持たれていることを探し参加して頂き、力が発揮出来る場面作りをしている。仕事に参加していただいた時には、感謝の言葉を伝えている。  |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスが5類に移行したのを受け、状況を鑑みながら、一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望する買い物に行ったり、御家族に協力して頂き、希望する場所に出かけていただく等している。また花見や紅葉の時期には、ドライブではあるが外出をしている。   | 家族と一緒に食事や墓参りに行ったり、家に戻ったり、服を見に出かけたりしている。また、気候が良い日には、職員と一緒にドライブで近くの公園に行ったり、花見を見に行ったりしている。新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、今後もっと職員との外出機会を増やしていきたいと考えている。 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                             | 金銭の所持については、御家族の方と相談しながら行っており、御本人が希望されれば小額を持っていただいている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 御家族の方と相談しながら、電話や手紙のやり取りをしている。  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の方と一緒に季節ごとの壁面や飾りなどを作り季節感を出すようにしている。居間には季節を感じられる花を飾ったり、観葉植物を置いて温かみのある空間にしている。  | 広いフロアには利用者が作成した季節の掲示物や観葉植物が飾られ、車椅子の人もゆとりをもって使用できるトイレには収納棚があり、紙パンツ等が見えないようプライバシーに配慮している。また、浴室には個々のパッドや薬などを収める棚があり、すぐに取り出せるよう綺麗に整理されている。感染対策としてトイレやフロアなどの各空間にはオゾン発生器が設置されている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 窓側に椅子やベンチを置き、利用者の方同士で話をされたり思い思いに過ごせるよう工夫している。  |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室には以前から使っていた馴染みのある物を持って来ていただける様にしている。家具・ベッドの配置も、御本人が使い易く落ち着ける様に部屋作りをして頂き、暖かい雰囲気を出す様にしている。またネームプレートの下の作品やお誕生日カードなどを飾られているお客様もいらっしゃる。 | 馴染みの布団や仏壇、家族写真、使い慣れた家具や化粧品などが持ち込まれており、個々に家にいるような雰囲気を醸している。また、壁面には利用者が作成した趣味の刺子やカレンダー等が貼られており、個々に居心地良い空間となっている。  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 一人ひとりの状態の変化を把握して、変化に合わせた環境整備を行う様、職員同士話し合い、本人の不安を取り除き、安心して生活して頂ける様に工夫している。  |   |                   |